

福祉サービス第三者評価結果

事業所名 伊勢原こぼと保育所

発効：2019年10月21日（2022年10月20日まで有効）

公益社団法人神奈川県社会福祉士会

公益社団法人神奈川県社会福祉士会 第三者評価結果

事業所基本事項

フリガナ	トクテイヒエイリカツドウホウジンイセハラコバトカイ イセハラコバトホイクショ
事業所名 (正式名称を記載)	特定非営利活動法人伊勢原こぼと会 伊勢原こぼと保育所
事業所種別	保育所
事業所住所 最寄駅	〒259 - 1144 伊勢原市池端 502 小田急小田原線 伊勢原駅下車 徒歩 12 分
事業所電話番号	0463-93-4414
事業所 FAX 番号	0463-26-3044
事業所代表者名	役職名 施設長 氏名 小倉生恵
法人名及び 法人代表者名	法人名 特定非営利活動法人伊勢原こぼと会 法人代表者氏名 理事長 加藤利秋
URL	www.ans.co.jp/n/iseharakobato
e-mail	kobatokko@olive.palala.or.jp
問合せ対応時間	9:00 ~ 18:00

事業所の概要 1

開設年月日	2003 (平成 15) 年 4 月 1 日 (無認可開設 1976 (昭和 51) 年 9 月 1 日)
定員数	70 名
都市計画法上の用途地域	住宅地
建物構造	木造平屋造り 1 階建
面積	敷地面積 (1,795.25) m ² 延床面積 (474.01) m ²

事業所の概要 2 (職員の概要)

総職員数	25 名
うち、次の職種に該当する職員数	施設長 (1 名) 保育士 (16 名) 調理員 (2 名) 内科嘱託医 (1 名) 歯科嘱託医 (1 名) 看護師・保健師 (0 名) 栄養士 (1 名) その他 (用務員 1 名、厨房補助 2 名)

事業所の概要 3 (受入・利用可能サービスの概要)

受入年齢	生後 2 ヶ月～小学校就学未満	
延長保育の実施	有・無	備考：平日 7:30~19:00、土 12:30~15:00
休日保育の実施	有・無	備考：
一時保育の実施	有・無	備考：一時預り保育、特定保
障害児保育の実施	有・無	備考：療育手帳保持 0 名
病後児保育の実施	有・無	備考：

保育の方針

<p>モットー “太陽と土と人間とのふれあいの中で”</p> <p>1. 心身ともに豊かで健康な子ども 2. 人への思いやりがある子 3. 意欲のある子ども 4. 言葉の豊かさを養う 5. 様々な体験を通して豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培う</p>

公益社団法人神奈川県社会福祉士会 第三者評価結果

1. 総合コメント

総合評価（事業所の特色や努力、工夫していること、事業者が課題と考えていること）

保育園の概要：

伊勢原こばと保育所は、小田急小田原線伊勢原駅から徒歩12分の住宅地にある。無認可保育園として1976（昭和51）年に保護者との「共同保育所」として開設、その後現在の場所に移り2003（平成15）年に認可され、園舎の増改築を経て現在に至っている。保育が行われている平屋の建物では、日常的に異年齢の子ども同士が触れ合う保育を実践し、また、産休明け保育、延長保育を通じて、父母が安心して働ける保育施設をめざしている。定員は70名で、調査実施時点での内訳は0歳児が5名、1歳児11名、2歳児13名、3歳13名、4歳児15名、5歳児15名で、16名の保育士も含め25名の職員により運営されている。保育目標に「モットー“太陽と土と人間とのふれあいの中で”」を掲げ、保育者と大勢の友達の輪の中で、子ども一人ひとりの成長が輝いたものであるよう保育を目指している。

○特に評価の高い点

1. 理念に沿った保育

保育理念の下、「太陽と土と人間とのふれあいの中で」をモットーに掲げ、乳幼児期の子育てが人間としての土台を培う大事な時期と位置付け、各種計画やカリキュラムに反映させ、保育を行っている。特に、散歩で草花や虫など自然に触れたり、田畑を借り、田植えをしてのお米の収穫や、トマト、キュウリなど各種の野菜を育てている。また、足の裏を使い、踏ん張る力や脚の力を鍛え発達を促すために雑巾掛けを週2回実施している。保育の様子について、子どもの姿に加え、保育士の対応やその時の子どもの反応も記録し、子ども一人ひとりの保育に活かしている。

2. 日常的に行われている異年齢児保育

異年齢の子どもとの触れ合いは、設立当時から「合同保育」と称して大切に捉え、日常的に実施している。建物はランチルーム兼ホールを中心に各クラスが配置され、遊びなどを通じて自由に関わりを持てる造りとなっている。昼食時は、全年齢の子どもと一緒にランチルーム兼ホールで食事をしている。日常的な異年齢児との関わりを通じて、相手との違いを認め仲間を大切にする気持ちが、自然に育まれている。

3. 「クッキング」を通じた食への取り組み

「クッキング」を、毎月1回全児童が参加して実施している。田畑で子ども達が育てたトマトやキュウリ、トウモロコシなどの野菜、とれたての筍など旬の食材を使ったり、ハンバーグをこねたり、野菜などをちぎったり切る、皮を剥ぐなど、年齢に応じて参加する事柄を工夫している。また、開始前に紙芝居等を用いて、食事の大切さや水分摂取、休息の大切さについて知る取り組みを行っている。最終的には調理士が調理し給食として提供しているが、自分が関わった食材を食すことも含め、子どもの自然な笑顔が出るプログラムとなっている。

4. 地域との良好な関係性

伊勢原市に産休明け保育や延長保育を実施する保育園が無いことから、1976（昭和51）年に地域の声を捉え開園して以降、現在まで長年の活動の積み重ねがある。現在利用している子どもの保護者が卒園生であるなど歴史がある。地域のJAが運営するお店で、子ども用のお買い物券を使った買い物ごっこで、子どもが実際に野菜を選んで買うなどのやりとりを楽しんでいる。

○改善を求められる点

1. サービスの改善への取り組み

「保育内容チェックリスト」を用いて年1、2回クラス単位で自己評価を実施し、取りまとめは主任が行っている。自己評価内容の活用は、施設長が職員会会議で全体評価として報告している。しかし、自己評価の結果をサービスの改善に反映させた具体的な事例は確認できなかった。自己評価を実施する目的と実施方法、評価結果を具体的なサービス改善に活かすなど、その活用について工夫が期待される。

2. 意見・苦情への対応

クラス懇談会で保護者が意見を言う時間を毎回取り、意見・要望の把握に努めている。また、よせられた苦情に関して保護者面談を実施し対応している。しかし、個別に保護者の意見や思いを聴取する場面が少なく、日常的な保護者とのやりとりの中から意見や要望、苦情を捉え、それを活かして対応する工夫が期待される。また、第三者委員との定期的な話し合いが行われていない。第三者の視点をサービス向上に活かす工夫が期待される。

3. 施設機能に応じた地域支援体制

長年の活動の積み重ねの中で地域と良好な関係を築いてきており、地域の子育て家庭に対し、随時園庭を開放し、また支援事業として「親子で一緒に遊ぼう会」を年複数回実施している。しかし、具体的な相談に応じた実績が少なく、子育てに対する不安感などの声を捉え対応する工夫が期待される。また、災害発生時に、専門職として保育士や栄養士が配置されている施設の特徴を活かした地域支援体制が未整備であり、対応が期待される。

評価領域ごとの特記事項

1	人権への配慮	<p>①子どもや保護者への接し方について、「伊勢原こぼと会職員倫理規程」等で定め、職員会会議、施設内研修で周知している。声掛けについても「○○さん」と言うことを徹底している。外国籍の子ども受け入れは一昨年までであり、差別しないことを職員会会議で確認を行った。虐待防止については、「要保護児童対策地域協議会」へ参加し、児童相談所と連携するなど協力体制を構築している。</p> <p>②個人情報保護について、「個人情報保護規定、方針」で定め、職員会会議で周知している。また、「個人情報保護に関する方針（プライバシーポリシー）」を施設内に掲示している。園だより等で子ども一人ひとりの様子を伝えているが、入所説明会など最初に保護者へ説明と同意を得て行うなど配慮している。</p> <p>③実習生やボランティア、見学者の受け入れは、施設長か主任が対応している。実習生については、「保育実習生受け入れにあたって」に定め説明を行っている。また、見学者は事前の連絡を受けて常時対応している。</p>
2	利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援	<p>①家庭との連絡や情報交換について、0～3歳児は、複写式になっている連絡ノートで行っている。4,5歳児の連絡ノートは、子どもの数が増えた事による保育士の業務負担を考慮し、苦渋の思いで数年前に廃止し、お迎え時等に個別に保護者と口頭で情報を交換するなど工夫している。</p> <p>②ホワイトボードを各クラスに設置し、当日のクラスの様子など日々更新し、送り迎え時の保護者とのコミュニケーションを工夫している。</p> <p>③各クラスで年2回開催しているクラス懇談会では、懇談の時間を大切にしている。また、個別面談は、苦情が寄せられた場合など必要に応じて実施している。</p> <p>④保護者からの意見や要望に対しては、「意見・要望受付書」を作成し、施設長と主任が対応策を作成し回答している。また、「意見箱」を設置しているが、活用された実績はない。</p>
3	サービスマネジメントシステムの確立	<p>①苦情については、受付から解決までの手順を「利用者の意見・要望等の相談解決実施規程」で定め玄関ロビーに掲示している。第三者委員は2名定め、連絡先も含めて「ご意見・ご要望の解決のための仕組みについて」に定め玄関ロビーに掲示している。しかし、第三者委員との話し合いが行われておらず、年1回以上サービス改善についての意見交換が期待される。</p> <p>②「健康管理及び保健活動について」に沿って日に3回室温、湿度を計測し、室温24℃を基準に快適な室内環境を整えている。</p> <p>③薬や危険物の取扱いについて「健康管理及び保健活動について」に、施設した場所や子どもの手が届かない所に置くなど明記され、毎月チェックリストで管理している。</p> <p>④おもちゃ、タオル、遊具の消毒や安全確認は「健康管理及び保健活動につ</p>

		<p>いて」で定め、おもちゃ等の消毒は、洗えるもの、洗えないもの、ぬいぐるみ、布類で分け、週1回の頻度を基準に水洗いか湯拭き、日光消毒を行っている。また、遊具の修繕は保護者の支援で実施している。</p> <p>⑤ 預薬や服薬管理を「くすりの取り扱いについて（保護者の方へ）」及び「健康管理及び保健活動について」で1回分のみ預かることなど定めている。その都度預かった薬を「服薬のお願い」で記録、実施状況を連絡ノートで保護者に報告している。しかし、保護者から預かった後の園内での管理方法や対処方法を明文化した書面が無く整備が期待される。</p> <p>⑥ 体調管理は各子どもの平熱を算出し行なっている。また、感染症等の発生状況については、各クラスのホワイトボードに記載し保護者に伝えている。また、国や市からの情報は職員室前に掲示し、注意喚起を行っている。しかし、保護者への情報提供の方法を定めた書面は無く、情報提供の記録とともに工夫が期待される。</p> <p>⑦ 緊急時の連絡指示・避難等について「防災訓練計画」「消防計画」に沿って、毎月想定内容を変更しながら避難訓練を行っている。しかし、災害発生時に、施設機能に応じた地域支援体制については定めていない。災害発生時の地域支援体制について定めるとともに、地域との連絡・連携について訓練等を通じての努力が期待される。</p>
<p>4</p>	<p>地域との交流・連携</p>	<p>① 地域の子育て家庭に向けた地域育児センター事業として、「親子で一緒に遊ぼう会」を年7回行っている。毎回10家族位が参加し、通常のクラスに入り実施している。また、保育園に入れず困っていること、食事のことなどの随時相談を受けている。さらに、地域の子育て家庭に対し、継続的な相談が実施できる体制整備と工夫が期待される。</p> <p>② 地域の子育て家庭に対し、曜日や時間帯で園が空いている時に随時園庭を開放している。「こぼと夏まつり」や「こぼとまつり」は、新聞折り込みで地域に広報を行い、地域に参加を呼びかけ実施している。また、絵本の貸し出しも行なっている。</p> <p>③ 幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校、教育委員会などで構成され年4回行われている「地域教育機関等連絡協議会」に参加し連携している。また、卒園後の小学校入学などを踏まえ、保育要録を送付することで連携している。</p>
<p>5</p>	<p>運営上の透明性の確保と継続性</p>	<p>① 年1,2回クラス単位で自己評価を実施し、全体評価結果を施設長が職員会会議で報告している。しかし、自己評価の結果をサービスの改善に結びつけた実績がなく、改善に活かす努力が期待される。</p> <p>② 保育過程を掲示し、また、パンフレットやホームページで保育所の運営、事業内容について公開している。しかし、担当者不在でホームページが更新されていない。ホームページを活用し、最新の保育状況に加え、ヒヤリハットや事故、保護者から寄せられた意見や対応状況、財務状況などの情報発信が期待される。</p> <p>③ 保育参観について常時受け入れしており、事前連絡があればいつでも可能となることを入所時に保護者に対して説明している。また年7回地域の子育て家庭に対して実施している「親子で一緒に遊ぼう会」は、在園児の保護者も参加可能で、保育参加のような位置付けにもなっている。</p>
<p>6</p>	<p>職員の資質向上促進</p>	<p>① 「入所のしおり」「保育の内容に関する全体的な計画」で保育理念や方針を明文化し、新年度研修を含め年数回会議等を通じて職員に周知している。</p> <p>② 年間研修計画を作成し、計画に沿って研修を実施している。外部研修の報告は「職員会会議」で報告を行っている。「研修報告書」のファイルはいつでも閲覧できるように、書庫で保管されている。</p> <p>③ 施設長が担当となるなど、実習生受入のためのマニュアル「保育実習生受け入れにあたって」を整備し対応している。年間20人程度を受け入れるなど、後進育成に力を入れている。</p>

2. 評価項目に基づく評価の結果

大項目1 保育環境の整備

評価機関が定めた評価項目に添って、調査を行った結果です

大項目1全体（調査確認事項全80事項）を通してのサービスの達成状況	91%
--	------------

大項目1の内容(概要)

1	人権の尊重	子どもや保護者に対する態度や言葉遣い 出生や国籍、性差などによる差別の禁止 子どもの虐待予防や早期発見のための地域の関係機関・団体との連携
2	プライバシー確保	プライバシー確保への配慮 個人情報保護の体制整備
3	家庭と保育園との信頼関係の確立	家庭との連絡、情報交換の体制 家庭の意向・希望の把握
4	苦情解決システム	苦情解決の体制整備
5	環境整備	温度や湿度等の管理 洗剤等の危険物の管理 おもちゃ、遊具等の管理
6	健康管理(感染症対策・救急救命を含む)	体調不良児、けがへの対応 感染症への対応 救急事態発生時の医療機関・家族等との連携
7	危機管理(防災・防犯)	火災や震災等の対応 日常の防災・防犯体制の整備
8	地域の子育て支援	地域内の子育てニーズの把握と支援
9	自己評価と情報開示	自己点検・改善活動の実施 地域への情報提供、情報開示 見学や保育参観の機会の設定
10	職員研修	職員研修の実施 実習生の受入れ、指導

大項目 2 保育内容の充実

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもと保育士とのかかわりにおいて、子どもの情緒の安定をはかることや、順調な発育・発達を促すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年齢別発達を理解、把握し、一人ひとりに合わせた発達、発育の援助していく。又、職員で連携して対応している。 2. スキンシップをとりながら、子どもの思いに寄り添い、安心して過ごせるよう情緒の安定を図っている。 3. 「太陽と土と人間とのふれあいの中で」をモットーとし、砂・水・泥・裸足の戸外遊びや散歩、畑作り、リズム遊び、斜面登り、雑巾がけ、マラソン、体育遊び等を取り入れて発達・発育を促している。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年齢別発達「保育の内容に関する全体的な計画」を毎年見直し、人ひとりに合わせ「個人別指導内容」を作成していることを「個人別指導内容」で確認した。昼食時など、日常的にクラス合同での異年齢児保育の場面があり、クラス担当の保育士が他のクラスの子どもにも目配りをして声かけしている様子を観察で確認した。 2. 日常的にスキンシップをとりながら、子どもの思いに寄り添い、情緒の安定を図っていることを「月案(きりん組)」の記録欄で確認した。1歳児を抱っこしてスキンシップを図りながら保育している様子を観察で確認した。 3. モットーの下で、足の裏を使い、踏ん張る力や脚の力を鍛える事を目的に、週2回0歳児から全クラスで実施している雑巾がけや、体育遊び等の様子を「日案 日誌(うさぎ組)」で確認した。園庭わきに、クラス毎に世話をしている畑があることを観察で確認した。
<p>子ども同士のかかわりにおいて、個の違いを認めあうことや他者と自分を大切にすることを育てるためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども同士の関わりを見守りながら、例えば玩具の取り合いの時、お互いの気持ちを伝え合えるように自分と他者の存在を認められるようにしている。 2. 異年齢児との遊びや生活で大きい子が小さい子のお手伝いをしたり、優しく接する姿を見せたり、小さい子が大きい子への喜びを持ったり、お互いを思う心を持てるようにしている。 3. 友だちとの遊びや生活を通して仲間の中の自分を感じることができ、楽しさや悔しさを知り、仲間を大切にすることが育つ。又、相手との違いを認めることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 玩具の取り合いなど子ども同士の関わりにおいて、互いの気持ちを伝え合えるようにしていることを「日案 日誌(りす組)」の記録欄で確認した。 2. 「合同保育」として日常的に行なっている異年齢児との遊びや、大きい子が小さい子のお手伝いを通して、小さい子を思う心を持てるようにしていることを「日案 日誌(うさぎ組)」の記録欄で確認した。ランチルーム兼ホールで、異年齢の子どもが同じ場所で食事をした後、歯磨きに行く途中で、大きい子が小さい子に声かけしている様子を観察で確認した。 3. 日常的に行っている異年齢児との関わりも含め、友だちとの遊びや生活を通して、仲間を大切にすることを「日案 日誌(うさぎ組)」の記録欄で確認した。
<p>子どもと社会とのかかわりにおいて、人に役立つことの喜びを感じたり、人と関わることの楽しさを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「親子で一緒にあそぼう会」やJAの買い物ごっこ、夏まつり、お月見・敬老の日集会等の行事を通して人間と関わる楽しさを味わう。 2. 「当番活動」や「ひよこ組のお手伝い」をすることで相手に感謝され、人の役に立っている喜びを味わう。 3. 散歩で地域の人に会ったら、保育士が率先して挨拶をし、子どもたちも自然に挨拶をする。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. JAが運営するお店でJAが企画し、子ども用のお買い物券を使った買い物ごっこで、子どもが実際に野菜を選んで買うなど、やりとりを楽しんでいることを「日案 日誌(うさぎ組)」の記録欄で確認した。 2. 4,5歳児が、昼食時の「当番活動」や0,1歳児の着替えなどのお手伝いをする「ひよこ組のお手伝い」などで、相手に感謝され人の役に立っている喜びを感じていることを「日案 日誌(うさぎ組)」の記録欄、「うさぎぐみだより」で確認した。昼食の前の「当番活動」で、ご飯やおかずを当番さんがよそい、みんな準備した当番さんに「ありがとう」とお

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
		<p>礼を言い、グループ毎に食べ始める様子を観察で確認した。</p> <p>3. 散歩で、保育士が率先して地域の人に挨拶をし、それにつられて子どもたちも挨拶をしていることを「日案 日誌（きりん組）」の記録欄で確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、言葉のやりとりを楽しめるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. わらべ唄、手遊び、歌遊び、言葉遊び、ごっこ遊び、劇遊び等を行い、言葉のやりとりを楽しめるようにしたり、好きな絵本や紙芝居をたくさん読んであげる。 2. 子どもからの話したい気持ちを受け止め、もっと話したい気持ちを高める。 3. 言葉が上手く出せない時期は、気持ちを代弁したり、言葉を繰り返して伝える。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手遊び、歌遊びで、言葉のやりとりを楽しんでいることを「日案 日誌（ひよこ組）」で確認した。好きな絵本や紙芝居を読んでいることを「月案 りす組）」の記録欄で確認した。 2. 子どもからの話したい気持ちを受け止め、話す場面を大切にしていることを「日案 日誌（ひよこ組）」の記録欄で確認した。 3. 子ども同士で絵本を取り合う中で、取られた子の気持ちと、取った子の気持ちを保育士が代弁するなど、言葉が上手く出せない時期は、保育士が気持ちを代弁していることを「日案 日誌（ひよこ組）」の記録欄で確認した。
<p>生活や遊びなどを通して、話すこと・聞くことが楽しめることや言葉の感覚が豊かになること、自分の伝えたいことが相手に伝わる喜びを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常的に絵本や紙芝居を読んだり、「お話会」に参加し、楽しみ、言葉が豊かになるように促している。 2. 休みの日の出来事や自分の体験したことを話したり、友だちの話を聞いたりする場を設けている。又、伝えたいことが上手く伝わらない時は代弁し、伝わった時の喜びを味わわせ、話すこと、聞くことが楽しめるようにしている。 3. 夏まつりのお神輿作りやお店屋さんごっこ等、クラスで話し合っ自分の意見を伝えたり、相手の思いを聞いたりできるようにする。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 月1回ボランティアが来園し全子どもに話を聞かせる「お話会」で、言葉が豊かになるよう保育していることを「日案 日誌（うさぎ組）」の記録欄で確認した。また、素話を聞かせていることを「日案 日誌（うさぎ組）」の記録欄で確認した。保育士が絵本を読み聞かせている様子を観察で確認した。 2. 休みの日の出来事や夜ご飯を食べた内容など自分の体験したことや、自分の気持ちを話したり、友だちの話を聞いたりする場を設けていることを「日案 日誌（うさぎ組）」の記録欄で確認した。 3. 「こぼと夏まつり」のお神輿作りやお店屋さんごっこ等、クラスで話し合っ自分の意見を伝えたり、相手の思いを聞いたりしていることを「日案 日誌（うさぎ組）」の記録欄で確認した。

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、楽しんで表現することができるようにすることや表現したい気持ちを育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ol style="list-style-type: none"> クレヨン、マジック、折り紙、画用紙等素材を常に用意し、描きたい時に描けるようにしている。 手遊び、歌遊びを楽しんだり、リズム、体育遊び、ジャギーなど身体を使って表現することを楽しんでいる。 好きな役になりきったり、ごっこ遊びをする中で保育士も一緒に遊び、更に楽しめるようにしている。 	<ol style="list-style-type: none"> お昼寝の後や夕方など時間があるときなど、描きたい時に描き表現できるように、クレヨン、マジック、折り紙、画用紙等素材を常に用意していることを「日案 日誌(うさぎ組)」の記録欄で確認した。各クラスにクレヨン、マジック、折り紙等素材が用意されていることを観察で確認した。 外部の講師が月 2 回来園し実施している体育遊び、やはり外部の講師が年 4 回来園し、音楽に合わせて体を動かしているジャギーなど、身体を使って表現することを楽しんでいることを「日案 日誌(りす組)」の記録欄で確認した。 お家ごっこなど遊びの中で、好きな役になりきり楽しんでいることを「日案 日誌(うさぎ組)」の記録欄で確認した。
<p>生活や遊びなどを通して、自発的に表現する意欲を育むことやみんなで一緒に表現する喜びを味わえるようにすること、創造的に表現することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ol style="list-style-type: none"> 夏まつりや運動会、卒園式のアトラクション、鯉のぼり製作、お店屋さんごっこ等を通して、一人ひとりの表現する意欲を育み、みんなで一緒に行う喜びを味わえるようにしている。 色々な素材や技法・自然物等を用いて自分で考え、自由に表現することを楽しんでいる。 年長児の取り組みとして、こま回し・まりつき・縄跳びを楽しむために「挑戦カード」を作り、みんなで一緒に取り組んでいる。 	<ol style="list-style-type: none"> 運動会、卒園式のアトラクション、鯉のぼり製作等を通して、みんなで一緒に行う喜びを味わえるようにしていることを「日案 日誌(りす組)」の記録欄で確認した。作ったお神輿をみんなで担っている様子を「『こぼと夏まつり』の写真」で確認した。 散歩で出かけた先で見つけ持ち帰った素材など色々な素材や技法・自然物等を用いて、自由に表現していることを「日案 日誌(ひよこ組)」の記録欄で確認した。 年長児の取り組みとして、こま回し・まりつき・縄跳びを楽しむために、年長の子どもは、先生が見ている前で挑戦して出来たらシールを貼る「挑戦カード」を作り、みんなで一緒に取り組んでいることを「月案 うさぎ組」の記録欄及び「挑戦カード」で確認した。
<p>生活や遊びなどを通して、聞く・見るなど感覚の働きを豊かにすることや身体を動かす楽しさを味わうこと、身近なものに対する興味や関心を引き出すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ol style="list-style-type: none"> 「お話し会」や人形劇を楽しんで、聞く・見るなどの感覚を豊かにし、五感を養う。 リズムやゲーム、講師によるジャギー・体育遊びなど身体を動かす楽しさを味わう。 身近なもの(生き物、草花、乗り物、自然等)の絵本や紙芝居を見せたり、本物に触れたりする。又、身近な物(新聞紙、空き箱、牛乳パックなど)を使って製作する。 	<ol style="list-style-type: none"> ボランティアが月に 1 回来園し、0 歳以外の全子どもを対象に実施している「お話し会」や、劇団による人形劇を楽しみ、聞く・見るなどの感覚を豊かにし、五感を養っていることを「日案 日誌(きりん組)」の記録欄で確認した。 リズムやゲーム、外部講師による年 4 回のジャギーや月 2 回の体育遊びなど身体を動かす楽しさを味わっていることを「日案 日誌(りす組)」の記録欄で確認した。 あぜ道の散歩で、てんとう虫や幼虫に触れたり、帰園後にてんとう虫の絵本や紙芝居を見ていることを「日案 日誌(うさぎ組)」の記録欄で確認した。また、ラップの芯で作ったアイスで遊んでいる様子を「写真」で確認した。生き物、草花、乗り物、自然等の絵本が、各クラス及び玄関ロビーに置かれていることを観察で確認した。

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、身近な様々なものに対する探索意欲を満足させることや社会や自然の事象や、動植物への興味や関心をもてるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自由に出して遊べるよう玩具を子どもたちの手の届くところに置き、興味を持たせたりしている。 2. 四季折々の自然や事象に触れたり、見つけたり、遊びに取り入れたりして興味・関心を深めている。 3. 野菜や植物の栽培、戸外遊びでの虫探し、散歩で捕まえたザリガニを飼育することを通して身近な動植物に対して命の大切さを知り、親しみを持つ。又、絵本や図鑑をみたりする。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ランチルーム兼ホールの扉付きの棚におもちゃなど準備し、また、0,1歳児はクラスに小さな棚を作り、玩具を子どもたちの手の届くところに置き、興味を持たせていることを「日誌(ひよこ組)」の記録欄で確認した。子どもがいつでも取り出して遊べるように、各クラス、及びランチルーム兼ホールの戸棚におもちゃなどが準備してあることを観察で確認した。 2. 四季折々の自然に触れ、松ぼっくりやどんぐりなど、散歩で見つけたものを持ち帰って製作に生かすなど、興味・関心を深めていることを「日案 日誌(ひよこ組)」の記録欄で確認した。 3. 田植えをしてそれを収穫したり、また畑で野菜を育て収穫して給食で食べていることを「日案 日誌(りす組)」で確認した。散歩で捕まえたザリガニを飼育し身近な動植物に対して命の大切さを知り、親しみを持っていることを「日案 日誌(きりん組)」の記録欄で確認した。ザリガニと亀を飼育していることを観察で確認した。
<p>自分から食べようとする意欲を育んだり、排泄をしようとする意欲を育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各クラスで野菜を育て収穫したり、自分たちでクッキングすることによって、食べる喜びへとつなげている。又、食材について知ることによって体に良いものを進んで食べたりする。 2. 4.5歳児は自分で盛り付けて食べられる量を加減し、完食できた喜びを味わう。又、保育士が食べる所を見せて、「おいしいね～」等、声を掛け楽しく食べることを心掛けている。 3. 排泄では無理強いせずに、トイレに行かれたり、便器に座れたら褒め自信や意欲につながるような声掛けをしている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎月1回全児童が参加して実施している「クッキング」の予定を「年間食育計画」で確認した。また、各クラスで野菜を育てて収穫し、自分たちでクッキングすることによって、食べる喜びへとつなげていることを「日案 日誌(うさぎ組)」の記録欄で確認した。昼食時に、自分達で育て収穫したインゲンがカレーに入っていることを保育士が子どもたちに伝え、インゲンを見つけ子どもたちがお互いに見せ合い話題にしている様子を観察で確認した。 2. 当番の子どもが、ご飯をよそい配膳している様子を「写真」で確認した。食事量の記録を「個人別指導内容 ひよこ組」で確認した。昼食の準備に際し、当番さんが子どもに聞きながら量を調整し盛り付けていることを観察で確認した。 3. 排泄は失敗しても叱らない方針で、無理強いせずに、トイレに行き、便器に座れたら褒め自信や意欲につながるような声掛けをしていることを「個人別指導内容 ひよこ組」で確認した。トイレに行けず排泄してしまった子どもに、保育士が笑顔で声をかけながら着替えなど対応し、子どもがうなづきながら、時々笑顔を見せて着替えを手伝ってもらっている様子を観察で確認した。

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>身の回りのことを自分でしようとする意欲を育むことや基本的な生活習慣を身につけること、食事や休息の大切さを理解することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「朝の仕事」や着脱等身の回りのことがしやすいよう環境を整え、丁寧に教えたり、一緒に行ったり、励ましたりして自らしようとする意欲を持たせ、自分でできた気持ちを大切にします。 2. 「クッキング」を通して手洗いや食事の大切さを知り、理解する。 3. 体調管理に必要なことを考え、自分で休息を取るよう促していった。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身の回りのことを丁寧に教えたり、一緒に行ったり、励ましたりして自らしようとする意欲を持たせていることを「個人別指導内容 きりん組」で確認した。子どもがいつでも取り出し、また片付けることができるように、各クラス、及びランチルーム兼ホールの戸棚におもちゃなどが小分けされ準備してあることを観察で確認した。 2. 生活習慣として、食事、排泄、衣服の着脱、身の回りの整理などと捉え、「朝の仕事」もその一環として実施していること、食事のマナー、箸や茶碗の持ち方は、間違っている子供も多く保護者と連携して取り組んでいることを、ヒアリングで確認した。また、紙芝居等を用いて、「クッキング」開始前に食事の大切さを知る取り組みを行っていることを、ヒアリングで確認した。 3. 水分摂取や休息の大切さについては、機会をとらえて声かけしていることを、ヒアリングで確認した。ランチルーム兼ホールの配膳台下の開きに、常にお茶が用意されており、子どもが飲みたい時に飲める様に準備していることを観察で確認した。

大項目3 保育園の特徴

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもの豊かな心と身体をはぐむための特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「太陽と土と人間とのふれあいの中で」をモットーとし、戸外遊び(水・砂・泥・裸足)、散歩で草花や虫など自然に触れ、五感を育み、日本の伝統行事を経験したりして、毎日が楽しいものであるよう保育内容を考えている。 2. 同年齢や異年齢の友だちと関わることによって仲間とのふれあいや一緒に過ごす喜びを大切にしている。 3. 年齢ごとに年間指導計画、年間目標、デイリープログラム、月案、週案を作成し、保育している。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. モットーの下、散歩で草花や虫など自然に触れていることを「日案 日誌(うさぎ組)」の記録欄で確認した。また、子どもが作ったお神輿を担いでいる様子を「写真」で確認した。年1回来園するちぎり絵の先生が作成した干支(猿・鶏・犬)の作品が、玄関ロビー脇に掲示されていることを観察で確認した。 2. 異年齢の子どもとの触れ合いは、設立当時から「合同保育」と称して大切に捉え、日常的に実施しており、仲間とのふれあいや一緒に過ごす喜びを大切にしていることを「月案 うさぎ組」で確認した。ランチルーム兼ホールで、異年齢の子どもと同じ場所で食事を終え歯磨きに行く途中で、大きい子が小さい子に声かけしている様子を観察で確認した。 3. 年齢ごとに年間指導計画、年間目標、デイリープログラム、月案、週案を作成し、一貫して「豊かな心と体」を育む保育をしていることを「年間指導計画書(うさぎ組)」「月案 うさぎ組」「日案 日誌(うさぎ組)」で確認した。
<p>保育環境に特別な配慮を必要とする子ども(長時間保育、障害児保育、乳児保育、外国籍子ども)の保育に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外国籍児に対しては、食べない食材があり、弁当持参の希望を受けていた。又、園での様子は連絡帳だけでなく、送迎時に丁寧に保護者に伝えていった。 2. 乳幼児保育では、健康状態、生活リズムや情緒の安定など配慮した保育を行う。又、授乳・離乳食・睡眠・排泄等についても保護者との連絡を密にとっている。 3. 障害のある子や配慮が必要な子の保育では、個の発達段階を全職員で把握し、必要に応じた個別対応を行っている。又、4.5歳児は連絡ノートがないが、支援が必要な子には連絡ノートを用意したり、児童表にも細かく記入していた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 昨年度まで保護者が外国籍の子どもが在籍し、分かりやすく連絡ノートを記述し、登園及び迎えの時に口頭でコミュニケーションをとるように工夫したことを「個人別指導内容 ひよこ組1歳児」「連絡ノート」で確認した。 2. 乳幼児保育では、健康状態、生活リズムや情緒の安定など配慮した保育を行い、授乳・離乳食・睡眠・排泄等についても保護者との連絡を密にとっていることを「連絡ノート」で確認した。0歳児を抱っこして、スキンシップをはかりながら保育している様子を観察で確認した。 3. 昨年度まで、障害が疑われる子どもが数名在籍し、市や児童相談所、教育センターなどと連携し、子どもの発達段階を全職員で把握し、必要に応じた個別対応を行っていることを「児童表」「就学指導における情報提供について(依頼)」「聞き取りシート」で確認した。

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>健康管理に特別な配慮を必要とする子ども(アレルギー疾患をもつ子ども、乳児保育、病後時保育など)の保育に関しての特徴的な取り組み(アレルギー食対応、個別食、離乳食など)について説明してください</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食物アレルギーのある子は保護者及び医師からの生活管理指導表を提出してもらい、除去食や代替食にしている。又、毎月献立表をチェックしてもらい、配膳時には職員間で確認しあっている。 2. 離乳食については、保護者に献立表を渡し、必ず家で食べた物を園で食べるようにしている。 3. 病後は数回検温したり、ゆったり過ごしたり、常に状態を把握している。又、服薬が必要な場合は医師からの説明を受けた服薬願いを提出してもらい飲ませている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食物アレルギーのある子どもには、保護者及び医師による生活管理指導表に基づき、除去食や代替食にしていることを「食物アレルギー個別票兼対応確認書」「伊勢原市 保育所等における食物アレルギー疾患生活管理指導表」で確認した。 2. 厚生労働省のガイドラインに基づき、離乳食については、保護者に献立表を渡し、家で食べた物を確認し提供していることを「給食予定・実施献立表及び給食日誌」「離乳食献立表」「給食予定献立表 離乳食」で確認した。 3. 病後児に対しては、一日数回検温したり、服薬が必要な場合は服薬願いを提出してもらい飲ませていることを「服薬のお願い」「日案日誌(ひよこ組)」で確認した。
<p>食に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 畑で季節の野菜を育て収穫し、給食やおやつで食べたり、育てた食材に触れたり、クッキングしたりして、作ることの楽しさや嬉しさを味わい、楽しく食べるよう心がけている。又、田植えや稲刈り等植物や食物への興味を深め、食育につなげていっている。 2. 市が作成した献立表を参考にしながら塩分、鉄分などを考え、園独自の献立表を作成している。又、午後のおやつは基本手作りとしている。 3. ホールで全員で食事をする。仲間と一緒に食べることで食べる意欲・楽しさを味わう。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 畑で季節の野菜を育て収穫し、給食やおやつで提供し、また、「クッキング」で作ることの楽しさを伝えていることを「栽培、畑コーナー(写真)」「クッキング(写真)」及び「日案日誌(うさぎ組)」の記録欄で確認した。昼食時に、育て収穫したインゲンがカレーに入っていることを保育士が子どもたちに伝え、インゲンを見つけ子どもたちがお互いに見せ合い話題にしている様子を観察で確認した。玄関ロビーの壁に「こぼと保育所で給食に使用している食材の産地」が貼られていることを観察で確認した。 2. 市が作成した献立表を参考にしながら塩分、鉄分などを考え、園独自の献立表を作成していることを「市発行 食育だより 7月号」で確認した。又、午後のおやつは基本手作りとしていることを「週間献立予定表(3歳以上児)」で確認した。 3. ランチルーム兼ホールで、子ども達及び保育士が全員で食事をし、仲間と一緒に食べることで食べる意欲・楽しさを味わっている様子を「食事の様子(写真)」で確認した。ランチルーム兼ホールで、異年齢の子ども達が保育士と共に同じ場所で食事をしていることを、観察で確認した。
<p>家庭とのコミュニケーションに関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日の「連絡ノート」や送迎時に口頭で様子を伝えている。又、4.5歳児はホワイトボードにその日の様子や連絡事項を記入し、掲示している。 2. 毎月のおたよりやクラス懇談会(年2回)で個々やクラス全体の様子を知らせている。 3. 必要に応じて両親、担任、施設長を交え、面談を行っている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日の「連絡ノート」で様子を伝えていることを「連絡ノート」で確認した。4.5歳児はホワイトボードにその日の様子や連絡事項を記入し、掲示していることを「ホワイトボード(写真)」で確認した。ホワイトボードにその日の様子を記入し、迎えに来た保護者がその内容を見て子どもと話題にしている様子を観察で確認した。 2. 毎月のおたよりや年2回のクラス懇談会で、各々の子どもやクラス全体の様子を知らせていることを「こぼとだより」「クラスだより(ひよこ、きりん組、りす組、うさぎ組)」「ひよこ組 1歳児 懇談会(記録)」で確認した。

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
		<p>3. 苦情に関して保護者面談を実施していることを「意見・要望受付書」で確認した。また、子ども同士のトラブルが増え、保育士が声をかけて保護者面談を実施したことを「育児相談」で確認した。</p>
<p>地域の子育て支援に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「親子で一緒にあそぼう会」を行い、地域の親子とふれあう（年 7 回） 2. 「こぼと夏祭り」、「こぼとまつり」の行事に地域の方が参加し、一緒に楽しむ。 3. 一時保育や育児相談（随時）を行っている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年 7 回「親子で一緒にあそぼう会」を行い、地域の親子とふれあいを実施していることを「年間行事予定表」「親子で一緒に遊ぼう会！」「親子で一緒に遊ぼう会 申し込み受付」「事業報告書」「遊ぼう会のスケジュール表」で確認した。 2. 「こぼと夏まつり」「こぼとまつり」の行事に地域の方が参加して実施していることを「年間行事予定表」「こぼとまつり」「事業報告書」で確認した。 3. 一時保育を行っていることを「一時預かり（一般型）利用登録児童一覧」「一時保育事業実施要項」「一時保育の利用の仕方」「一時預かり事業利用登録兼利用申請書」「一時保育利用申込受付表」で確認した。随時育児相談に応じていることは、書面では確認できなかった。

3. 利用者への調査

～ 保護者アンケート調査を実施した結果です ～

(1) 調査の状況

調査期間	2019（令和元）年5月1日 ～ 2019（令和元）年6月10日
調査方法	所定の調査票（アンケート票）により実施した。
調査対象者の匿名化	調査は無記名で行い、調査結果から回答について個人が特定化される場合は、評価機関で匿名化を図った。
アンケート調査票の配布	対象者には事業所を經由して調査票を配布した。
アンケート調査票の回収	記入済みの調査票は対象者から直接、評価機関に郵送された。
回収の状況	調査票配布数 56 返送通数 39 回収率 69.6 %

(2) 調査結果の傾向

◆アンケート調査全体の傾向

- 園の保育方針、保育内容について、「知っている」97.4%、「知らない」が2.6%となっている。
- お子さんの個別の事情（アレルギー・家庭の事情）について、「相談しやすい」89.7%、「やや相談しにくい」「相談しにくい」合わせて5.1%となっている。
- 遊具の清潔や安全面の配慮について、「配慮が感じられる」74.4%に対し、「少し心配がある」23.1%、「心配がある」0%となっている。
- 不審者侵入防止などの防犯対策について、「安心が感じられる」43.6%に対し、「少し心配がある」51.3%、「心配がある」2.6%となっている。
- 事故や災害時の連絡体制について、「安心が感じられる」71.8%に対し、「少し心配がある」23.1%、「心配がある」2.6%となっている。
- 園の良い点の自由意見では、主に「子どもたちを自由にのびのび遊ばせて保育をしてくれる」といったことが最も多く、「たくさん散歩に連れていってくれる」「田植えや畑など自然に触れさせてくれる」「子どもが楽しめる、学べる、体験できるイベントを多く企画している」「泥んこになってのびのびと遊べる」ことが良いという意見があった。また保育士・職員に関しても「保育士の子どもの関わりがとても温かく信頼できる」「先生、職員に愛情たっぷりに保育していただいている」「先生と保護者もよく情報交換ができていて雰囲気が良い」「先生方の対応が細やか」「先生がいつもニコニコして子どもたちや保護者に接してくれる」といった意見が多く挙げられていた。食育の面でも「市販のお菓子ではなく、手作りのおやつが良い」といったことが挙げられていた。
- 改善して欲しい点の自由意見では、行事の時間や、参加形態に関する意見が挙げられていた。また「年長になると連絡ノートが無くなったのが残念だ」という意見が複数見られた。
- その他の自由記述では、「子どもが毎日、早くこばとに行きたいと行っているので、園や先生たちに感謝している」「先生たちには共に育てて頂いているという感謝しかない」「安心して子どもを預けることができる」といった記載が多く見られた。そのほか「祭りや保護者会イベントなど保護者同士の交流も持ちやすいのが魅力的」といった意見もあった。